

研究室名 _____
 回答者 _____
 職名 _____
 連絡先(内線) _____

従事者数

	男性	女性	計
教職員			0
学生			0
合計	0	0	0

設置場所(部屋番号) _____
 設置台数 _____

※朱書き部分は記入例

有機溶剤業務の概要

1. 使用する有機溶剤およびその年間使用量

クロロホルム	40kg/年
二硫化炭素	1kg/年
アセトン	40kg/年
イソプロピルアルコール	10kg/年
エチルエーテル	10kg/年
クロルベンゼン	1kg/年
酢酸エチル	1kg/年
1,4-ジオキサン	1kg/年
ジクロルメタン	80kg/年
N,N-ジメチルホルムアミド	1kg/年
テトラヒドロフラン	1kg/年
トルエン	1kg/年
ノルマルヘキサン	1kg/年
メタノール	10kg/年
アセトニトリル	3kg/年

2. ドラフトからの排出量

いずれの溶媒も、ほとんどの廃液を回収して業者に処理を委託するため、ドラフトを通じての大気中への放出は軽微である。

3. 業務内容

イソプロピルアルコール

水酸化カリウムを溶解してガラス器具の油性の汚れを除く際に用いる。
また、金属錯体化合物合成の際の反応溶媒としても用いる。その際は、ガラス器具内に密封して用いるため放出はない。廃液は業者委託する。

アセトン

ガラス器具の洗浄・乾燥に用いる。この際、少量が揮散して大気に放出される。反応溶媒としても用いる。

二硫化炭素

溶媒としてではなく、含硫黄有機化合物を合成する際の原材料として用いる。反応溶媒としても用いる。廃液は業者委託する。

その他の溶媒

金属錯体化合物合成の際の反応溶媒として用いる。廃液は業者委託す。

※朱書き部分は記入例

特定化学物質業務の概要

1. 使用する特定化学物質およびその年間使用量

クロム酸塩	10g/年
五酸化バナジウム	10g/年
シアン化カリウム	10g/年
重クロム酸塩	10g/年
水銀化合物	500g/年
フッ化水素	10g/年
ベンゼン	20kg/年
マンガン化合物	10g/年
塩酸	1kg/年
硝酸	1kg/年
硫酸	1kg/年
アンモニア水	500g/年

2. ドラフトからの排出量

スクラバーにより大気中への放出を防げるため、いずれも軽微である。

3. 業務内容

新規金属錯体化合物の創製を目的として、合成反応の原材料として用いる。
それ以外の使用業態としては、

ベンゼン

金属錯体化合物合成の際の反応溶媒として用いる。廃液は業者委託す。
塩酸・硝酸

難溶性の金属塩に汚染されたガラス器具の洗浄に用いる。

※朱書き部分は記入例
※分量の目安はA4 1枚

届出の概要

研究内容: 「タイトル」

1・研究について
本研究は～

2・実験、器具の洗浄に伴い排出される化学物質の処理方法について
(以下、記入例)

実験に伴う廃液は、重金属類、酸、アルカリ、有機溶媒、に分けて回収。
すべて廃棄物処理業者に委託処理する。
器具類の洗浄は必ず二次洗浄まで行い、洗浄に伴い排出される廃液についても、
処理業者に委託処理する。
これに関わる廃液等も基本的に環境中には放出しないようにする。
有機物、重金属を含まない、酸、アルカリについても処理業者に委託処理し、
中和後の環境中への排出を行わないものとする。
二次洗浄後は家庭用洗剤で洗浄し、その後エタノール、イオン交換水で洗浄
するが、これに伴う廃液には酸、アルカリ、重金属等の有害物質が含まれて
いないため、下水から排出するものとする。(エタノールは水で希釈する)
粉塵、固体についても全て回収し、専門の処理業者に委託処理するものとする。
上記廃棄物の処理方法について、実験室を使用する予定の学生、職員に対し周知
した上で、実験室の使用を認めるものとする。

※朱書き部分は記入例。

※主たる薬品を記入する。(届出の概要に登場する薬品は絶対に記

※目安:A4 1枚におさまる程度の種類を列举

使用原料又は薬品の種類と1日あたりの量

物質名	使用量(kg/日)
【有機物】	
エタノール	0.01
メタノール	0.01
アセトン	0.005以下
エチレングリコール	0.005以下
クロロホルム	0.0001以下
クエン酸ナトリウム	0.001
ステアリン酸	0.001
ミリスチン酸	0.001
オレイン酸	0.001
リノール酸	0.001
リノレン酸	0.001
酢酸	0.001
【無機物質】(酸性)	
塩酸	0.001以下
硝酸	0.001以下
【無機物質】(塩基性)	
水酸化ナトリウム	0.001
【無機物質】(金属塩)	
塩化ナトリウム	0.01
塩化カリウム	0.01
硝酸銀	0.0005以下
塩化金	0.0005以下
塩化銅	0.0005以下